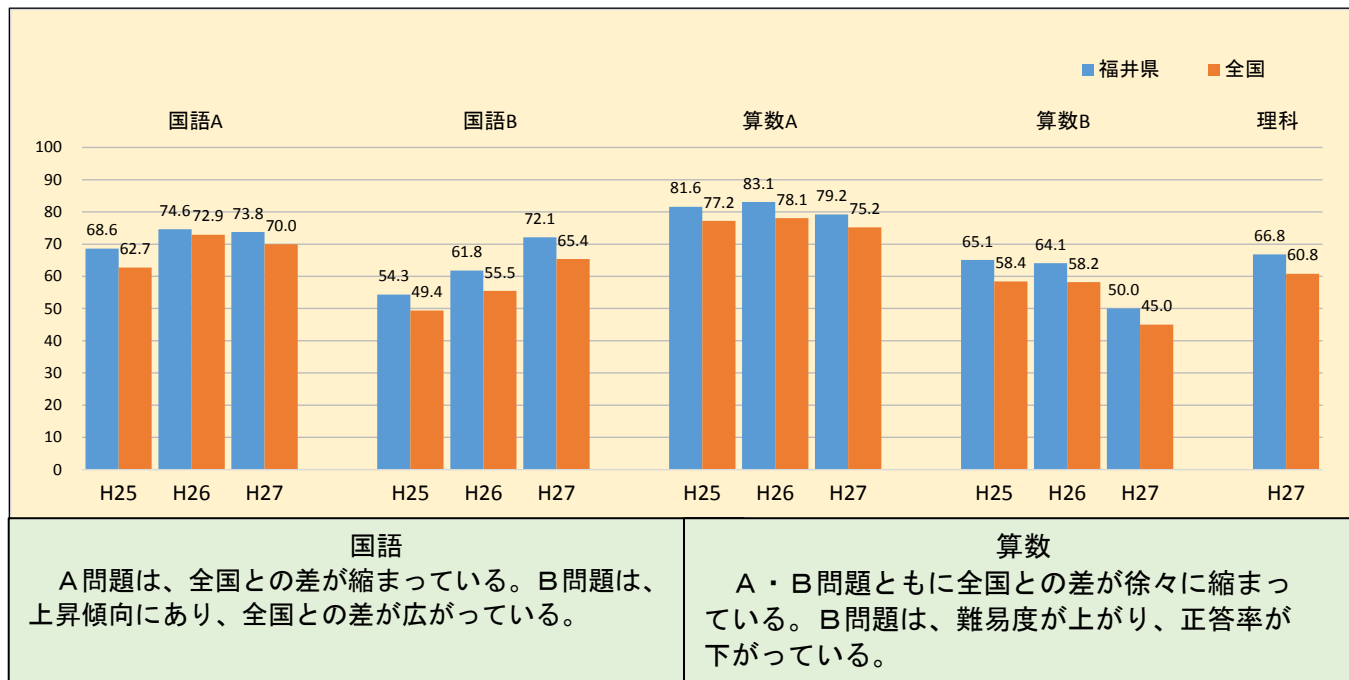


# 福井県の学力に関する現状分析と指導改善(小学校)

平成28年2月 福井県学力向上センター

## 全国学力・学習状況調査 3カ年の推移 (平均正答率の比較)



## 全国学力・学習状況調査 児童質問紙 「良好」・「課題」であること

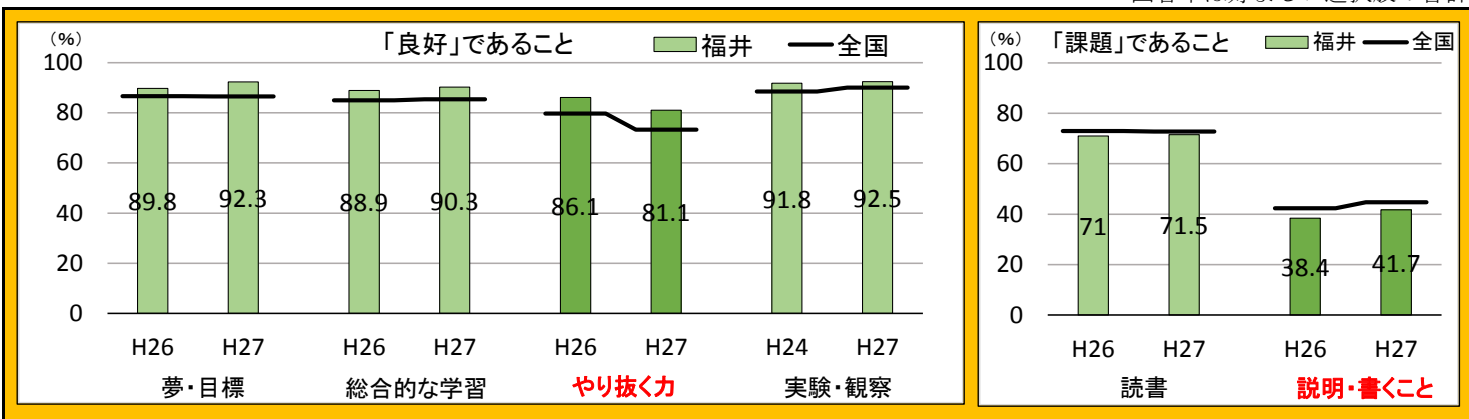
**「良好」であること**

- 自己肯定感が高く、夢や目標を持っており、人の気持ちが分かって役に立つ人間になりたいと思う気持ちが強い。
- 「総合的な学習の時間」や国語・算数の授業で学習した内容は、将来社会に出たときに役に立つから大切だという気持ちが強い。
- 難題にぶつかっても粘り強く乗り越えようとし、その喜びも実感している。 【学力との相関がある】
- 理科の観察や実験に興味を持っており、授業内容もよく理解している。

**「課題」であること**

- 読書が好きな児童が増えていない。
- 自分の考えを伝えたり、文章を書いたりすることは難しいと感じている。 【学力との相関がある】

\*回答率は好ましい選択肢の合計

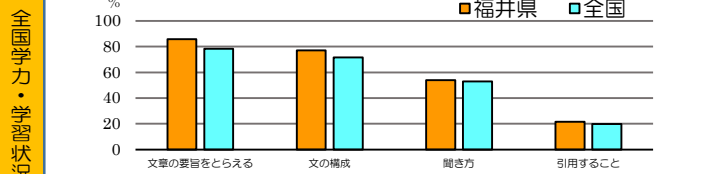


## 全国学力・学習状況調査 学校質問紙 「学力との相関から見える特徴」

次の質問項目に肯定的に回答した学校は、正答率が高い傾向がある。

- ・児童は、熱意を持って勉強していると思う。
- ・児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。
- ・児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。
- ・学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている。

# 小学校国語



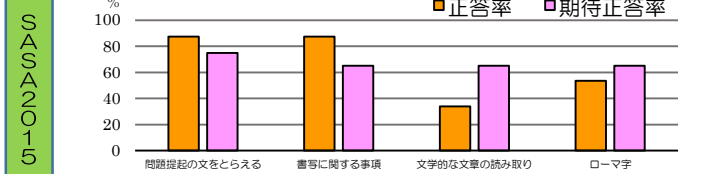
## 良好とみられる点

- ◇目的に応じて、中心となる文章の要旨をとらえること
- ◇文を構成する主語と述語の関係をとらえること

## 課題とみられる点

- ◆話し手の意図をとらえながら話を聞くこと
- ◆目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用すること

全国学力・学習状況調査(平成27年度)より



## 良好とみられる点

- ◇説明的な文章において、問題提起している文をとらえること
- ◇漢字と仮名の大きさや文字の配列を整えること

## 課題とみられる点

- ◆登場人物の心情と行動や様子などを結び付けて考えること
- ◆簡単なローマ字を書くこと

SASA2015(第64次福井県学力調査)より

### 課題を克服するための指導事例

#### 課題

話し手の意図をとらえながら聞くこと

・話すこと・聞くことの学習のときには、「聞き方チェックシート」を活用して、聞くときのポイントを明確にしてから学習に入る。

#### 〈聞き方チェックシート〉

- ①あいづちを打ったり、うなずいたりして聞く。
- ②大事なことを落とさないように聞く。
- ③自分の体験などと結びつけて聞く。
- ④自分の意見と比べながら聞く。
- ⑤話し手の意図を考えながら聞く。
- ⑥感想や質問を言う。



学年や学習内容に応じて、チェックポイントを絞るとよいですね。

〈聞き方チェックシート〉使用場面【例】

国語の授業で  
「きて、きて、きてみよう」「明日をつくるわたしたち」(光村5年)  
「学校討論会しよう」「未来がよりよくなるために」(光村6年)  
朝の会のスピーチ・全校集会のお話・学習発表会などで

#### 課題

登場人物の心情と行動や様子などを結び付けて考えること

・6年間を通じて文学的文章の「読み方」を身に付けさせる。

〈人物像をとらえる〉対象3年生以上

- ①物語を読み、登場する人物をカードに書き出し、中心となる人物を確かめる。
- ②行動や会話文、情景描写などに着目しながら、どのような人物かが分かる言葉をカードに書き出し、観点ごとに整理する。
- ③根拠となる叙述をもとに、人物の性格を話し合う。

3年生以上では、登場人物の人物像を捉えること、5年生以上では、登場人物の相互関係を明確にすることをねらいとします。

教科書に出てくる学習用語をおさえる。

子どもたちが獲得してきた学習用語を繰り返し確認し、授業で使って定着を図りましょう。授業で学んだ読み方を、並行読書でも活用することで一般化につながります。



### SASA2015 ICチャレンジ問題

#### 求められる学力

- ・情報相互の関係性を理解して解釈する力
- ・自らの知識や経験を結び付けて考え、複数の条件に合わせて文章を書く力
- ・言葉によって人間関係を構築するコミュニケーション力

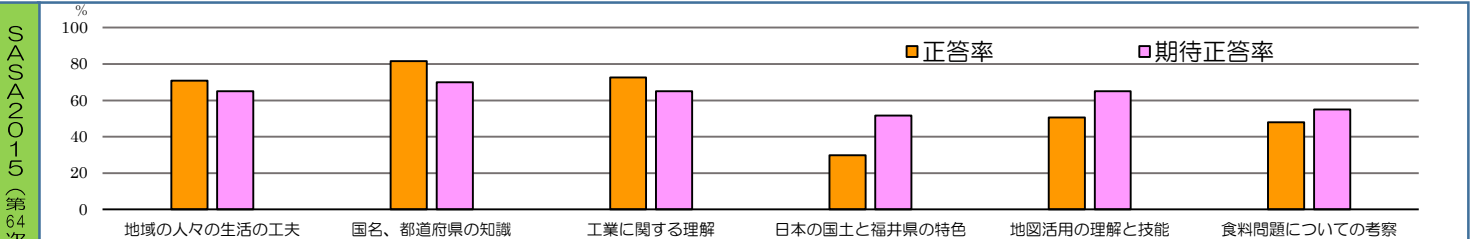
#### これからの授業において大切にしたいこと

☆教材に関連した表やグラフ、新聞記事等多様なテキストを用いて、自分の知識や経験と結び付けて考えをまとめる活動を取り入れましょう。  
☆収集した情報を取捨選択してまとめたり、資料を効果的に提示しながら説得力のある説明をしたりする活動を取り入れましょう。

国語科で育んだ力を実生活で生きて働くものにするために、他教科や総合的な学習の時間、学校行事など様々な場面において言語活動を充実させましょう。



# 小学校社会



## 良好とみられる点

- ◇昔や今の地域の人々の生活に関する工夫を考察すること
- ◇国名、都道府県の位置についての基礎的な知識
- ◇工業の種類、伝統的な工業製品についての理解

## 課題とみられる点

- ◆日本の国土や福井県についての特色をつかむこと
- ◆地図上の位置や距離を表す経緯度、方位、縮尺の理解と活用
- ◆国内外の現状を踏まえて、食料問題について考察すること

SASA2015(第64次福井県学力調査)より

### 課題を克服するための指導事例

#### 課題

福井県についての特色を、調査結果や統計資料などと関連させてつかむこと

・福井県の魅力が伝わる旅行プランを考えよう。

- ①福井県の市や町の観光地や特産物を調査し、表や白地図にまとめる。
  - ②福井県の地勢図や土地利用図、主な交通網の広がりを出す地図を用意する。
  - ③①で作成した表や地図と②の地図を比較し、地域的特色が生まれる理由を考える。
  - ④主な交通網の広がりの地図を使って、ツアーの企画書を考え、発表する。
- 【テーマ例：満腹グルメツアー、自然体験ツアー、歴史を感じる観光名所ツアーなど】



外国の人を対象にした旅行プランにするのか、国内の人を対象にするなら何県に住んでいる人を対象にした旅行プランにするのかなどを考えさせると、さらに視野が広がりますね。

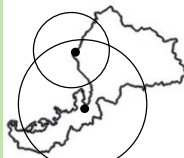
#### 課題

地図上の位置や距離を表す方位、縮尺などを理解し、活用すること

・地図の縮尺を使った宝探しクイズをしよう。

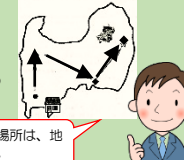
〈例1〉コンパスを使った宝探しクイズ

- ①福井県内にある
- ②敦賀駅から約50kmの距離
- ③越前岬から約25kmの距離
- ④②と③が交わったところに宝がある



〈例2〉方位と縮尺を活用した宝探しクイズ

- ①〇〇町から北へ〇〇km行く
- ②そこから南東へ〇〇km行く
- ③そこから北東に〇〇km行ったところに宝がある



出発地・チェックポイント・宝のある場所は、地名・駅名などわかりやすい所にしよう。

### SASA2015 ICチャレンジ問題

#### 求められる学力

- ・社会の実態や現状を複数の資料から読み取る力
- ・既習内容や体験と関連させて、多面的・多角的に考察する力
- ・持続可能な社会の実現に向けての工夫、問題点について、自分の考えを説明する力

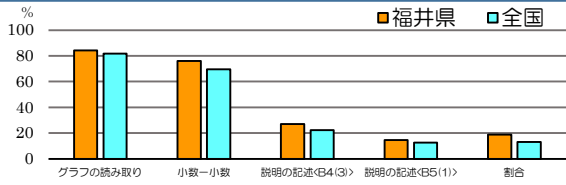
#### これからの授業において大切にしたいこと

☆授業のねらいに合った地図や統計資料を用いて資料の数値や変化に着目させ、変化の原因について考えさせる活動を行っていきましょう。  
☆持続可能な社会の実現について考える授業では意思決定や価値判断を促す授業に取り組んでいくとよいでしょう。なぜそのように考えたのかという根拠を示す際には、資料を使って説明できるようにしていきましょう。



# 小学校算数

全国学力・学習状況調査(平成27年度)より



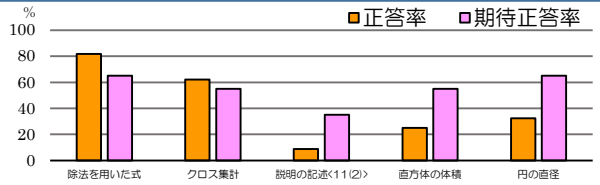
## 良好とみられる点

- ◇グラフの特徴を理解し、示されている内容を読み取ること
- ◇「小数-小数」を正確に計算すること

## 課題とみられる点

- ◆筋道を立てて説明すること
- ◆比較量と割合から基準量を求めること

SASA2015 (第64次福井県学力調査)より



## 良好とみられる点

- ◇小数倍の意味を理解し、除法を用いて基準量を求めること
- ◇与えられた情報を表にまとめ、条件に合う数量を求めること

## 課題とみられる点

- ◆図形の性質をもとにして、筋道を立てて説明すること
- ◆図形に関して必要な情報を見極めて、活用すること

### 課題を克服するための指導事例

#### 課題

筋道を立てて説明すること

◎付箋を利用して、自分の考えを整理しながら説明する文章を書く活動を取り入れる。

- ①問題文から結論を抜き出し、付箋に書く。
- ②数量や図形に関する情報を付箋に書き出す。
- ③必要な正しい情報だけを選び、図に書き込む。
- ④付箋や図を活用して説明する文を書く。

#### 〈指導のポイント〉

- ・付箋の色は、結論の付箋と違う色にすると説明する事柄がはっきりする。
- ・図に書き込むことで視覚的に分かりやすくなり、考えが整理できることをおさえる。
- ・書いた文章は、教員が評価することが大切。

結論を書かないと説明したことになります。



#### 課題

図形に関して必要な情報を見極めて、活用すること

◎必要な情報は何かを考え、問題文や図に書き込むことで整理する活動を取り入れる。

- 面積や体積の学習で、あえて多くの情報を与え、必要な長さを選ばせる活動を取り入れる。  
(例) 三角形の底辺や高さを見つける活動
- 図形の性質を活用して考える課題を設定する。  
(例) 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選ぶ (全国学調A5(1))

#### 〈指導のポイント〉

- ・図への書き込みは、数字だけでなく記号や印も使うと効果的。
- ・必要でない情報を消去することも大切。

### SASA2015 [C チャレンジ問題]

#### 求められる学力

- ・身近な課題を算数と結びつけて考え、情報を整理・活用する力
- ・理由や根拠を明らかにしながら考え、筋道を立てて説明する力

#### これからの授業において大切にしたいこと

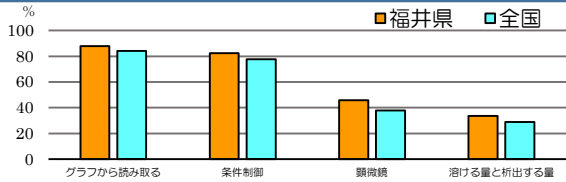
- ☆題材選びを工夫し、身近な場面で算数が生かせると感じ取れるようにしましょう。  
(例) 時刻 買い物 ライン引き (全国学調より)
- ☆ペアやグループで話し合わせる際には、児童の多種多様な考え方を引き出すために、正解が複数存在するような課題も扱ってみましょう。

友だちに説明することで、自分の考えが整理されたり、理解が深まったりします。



# 小学校理科

全国学力・学習状況調査(平成27年度)より



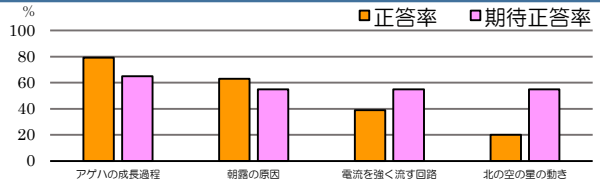
## 良好とみられる点

- ◇グラフから読み取れることを関連付けながら考察すること
- ◇条件制御しながら実験を構想すること

## 課題とみられる点

- ◆観察・実験器具を適切に操作すること(顕微鏡)
- ◆物質が水に溶ける量と析出する量とを関連付けて理解すること

SASA2015 (第64次福井県学力調査)より



## 良好とみられる点

- ◇昆虫の育ち方について正しく指摘すること
- ◇『水⇄水蒸気』の変化について正しく指摘すること

## 課題とみられる点

- ◆乾電池のつなぎ方と電流の向き・強さとを関係付けること
- ◆星の動きについて理解すること

### 課題を克服するための指導事例

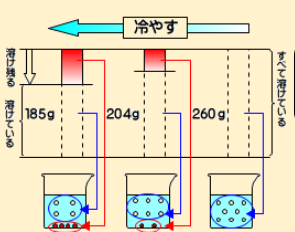
#### 課題

物質が水に溶ける量と析出する量とを関連付けて理解すること

・条件を変えて実験し、析出量は何に關係して決まるかを考察させる。

・溶け残った量を可視化したグラフを用いて定量的に理解させる。

#### 〈溶け残った量を可視化したグラフの例〉



見えないものに注目させる手立てが大切です。



#### 課題

乾電池のつなぎ方と電流の向き・強さとを関係付けること

・電流の向きによって、はたらき方が変わる道具を用いて、電流には向きがあることを実感させる。

#### 〈道具の例〉

LED モーター 電子オルゴール



検流計で電流の向きを確認させることで、電流の向きと道具のはたらきを結びつけて考えるようになります。



・「ものづくり」を通して、電流の向き・強さを変える工夫を体験させる。

〈例〉「より速く走る車を作ろう」

「せん風機を作ろう・そうじ機を作ろう」

### SASA2015 [C チャレンジ問題]

#### 求められる学力

- ・身近な自然現象から浮かんだ疑問を、身につけた知識や技能をあてはめて解決するための思考力
- ・科学的視点で解釈し、考えをまとめて表現する力

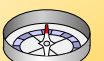
#### これからの授業において大切にしたいこと

☆理科で学習することが、身近な事象や科学技術に結びついている例を取り上げましょう。

〈例〉「植物の成長」→『農作物の栽培』→「植物工場」

「電磁石」→『モーター』→「電気自動車」

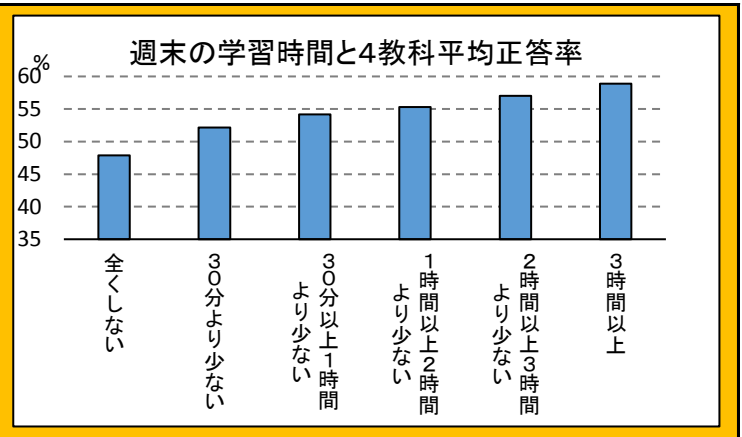
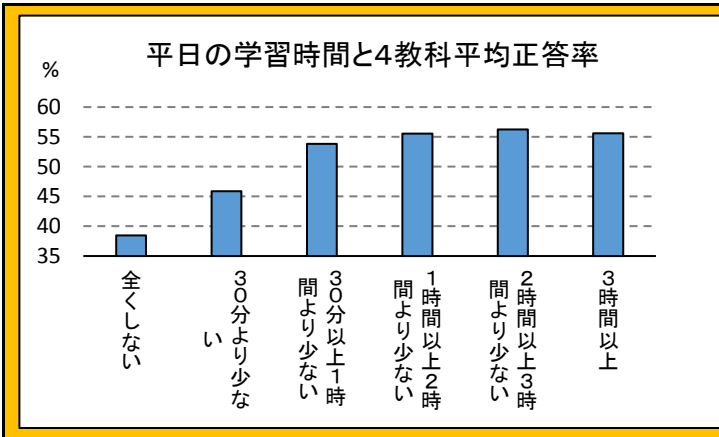
- ☆学んだことや体験したことを生かして、観察・実験結果の理由や考察を、根拠とともに自分の言葉で説明する活動を多く取り入れましょう。



# SASA（福井県学力調査） 児童質問紙 ー生活・学習・学級に関する調査と正答率との関連ー

## 【生活に関する質問と正答率との関連】

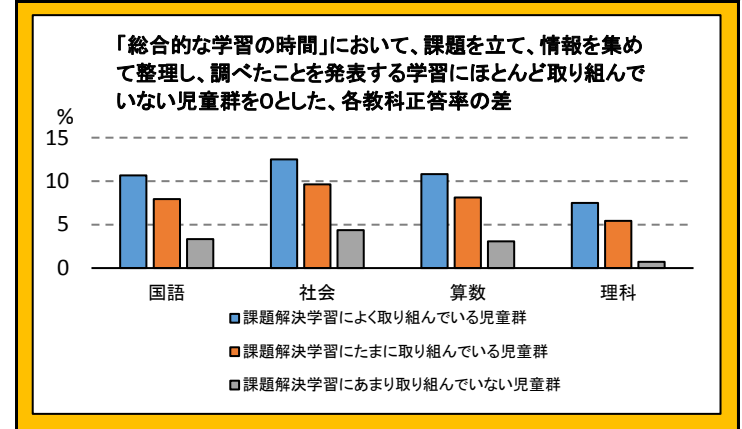
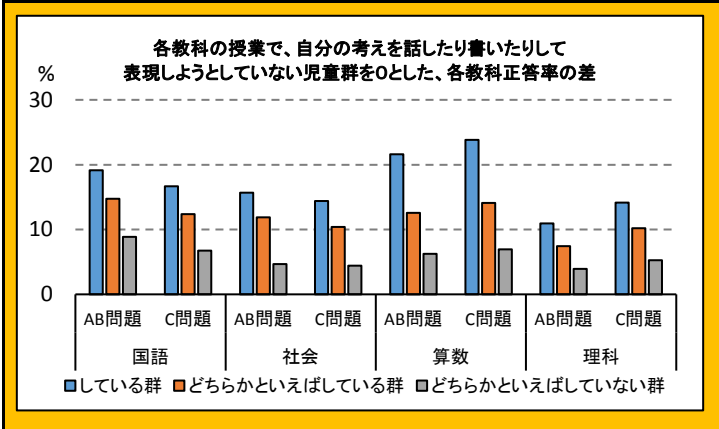
平日の学習時間について、30分よりも少ない児童の正答率は、それ以上学習している児童の正答率との差が大きいことが示されました。  
週末の学習時間について、学習時間が長いほど、正答率が高くなることが示されました。



## 【学習に関する質問と正答率との関連】

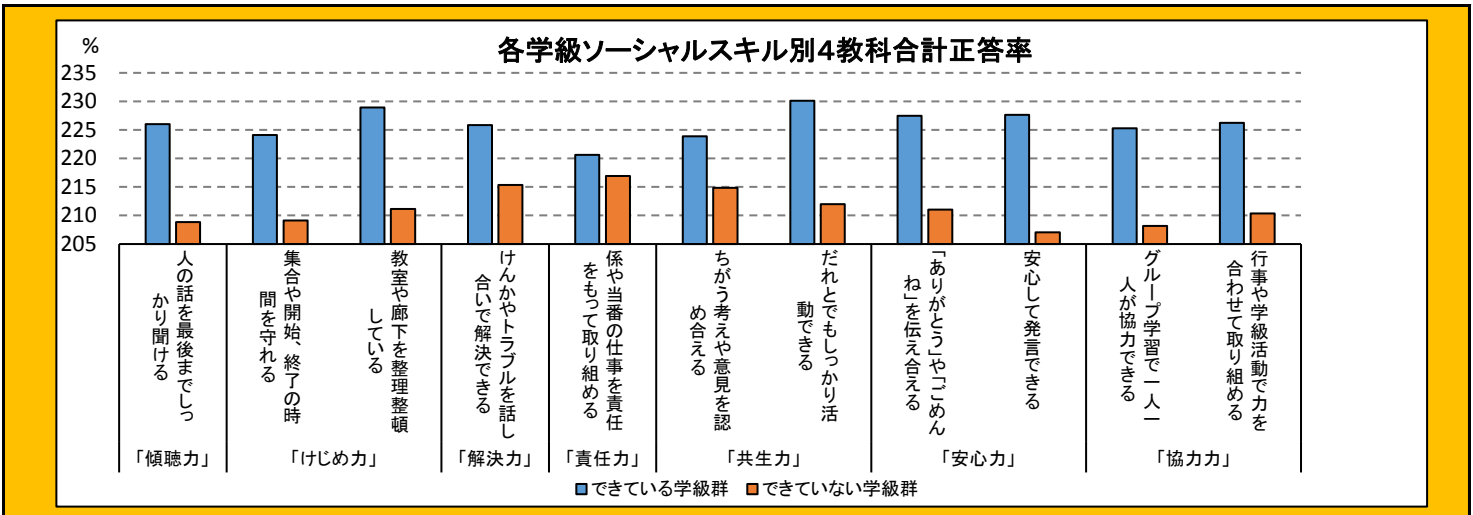
各教科の授業で、自分の考えを話したり書いたりして表現しようとしている児童は、それぞれの教科の正答率が高くなり、特に算数と理科においては、AB問題よりも、C問題に差がつくことが示されました。

「総合的な学習の時間」において、課題を立て、情報を集めて整理し、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる児童ほど、各教科の正答率が高くなることが示されました。



## 【学級に関する質問と正答率との関連】

学級の状態が良好なクラスは、正答率が高くなることが示されました。11個の学級ソーシャルスキルに関する質問別にみると、「だれと同じグループになっても、しっかりと活動できる学級」「教室や廊下等の整理整頓をしている学級」「授業などで、間違いを恐れず、安心して発言できる学級」ほど、正答率が高くなることが示されました。



※詳細については、福井県教育研究所HP (<http://www.fukui-c.ed.jp/~fec/>) の「SASA」内または「全国学調」内にありますので、ご活用ください。